

■校舎使用停止を乗り越え学校生活を送った児童にたくましさ

新田第一小の50余年の幕が落ろされることになり、多くの人が寂しい思いをされていると思います。しかし、急速に変化する社会で少子化などによる児童数の減少は避けられないのが現実です。

市が行った耐震度検査結果により、校舎の一部と体育館の使用が停止。2年間の新田中、新田公民館、プレハブ校舎での学校生活を余儀なくされました。しかし、子どもたちは戸惑うことなく元気に学校生活を送り、環境の変化に対応する順応性にはたくましさを感じました。きっと、新しい「新田小学校」でも元気に伸び伸びと学校生活を過ごしてくれると思います。

新田第一小は閉校しますが、地域に存在した母校として、これからも『いちい』と、学校から見た『栗駒山と伊豆沼』は、皆さんの忘れられない記憶として残ることでしょう。



よしあき 鈴木 芳明さん
(新田第一小・迫町大形)

■閉校により教職員、地域住民の方々の思いをあらためて実感

多くの卒業生を送り出し、たくさんの輝かしい賞を受賞するなど歴史ある素晴らしい学校となった新田第二小。これもひとえに校長・教頭先生はじめ、教職員皆様のご指導、地域の皆様のご支援があったからこそだと思います。

市が行った耐震度検査で、西側校舎に強度不足があることが判明し、平成18年度から1〜4年生がプレハブ校舎での授業となり、子どもたちには不便な思いをさせてしまいました。問題を早期に解決するために統合は苦渋の選択。統合準備をPTA会員は一丸となって取り組みました。

閉校事業を進める中で、わたしたちは学校の歴史を学ぶことができ、教職員や地域住民の方々の学校への思いを感じる事ができました。4月から新・新田小となりますが、これからも地域の皆さんの温かいご支援をお願いします。



かずひこ 鎌田 和彦さん
(新田第二小・迫町大浦)

■学校統合によって自分たちが住んでいる地域を考える機会に

市の学校統合構想により進められた統合は、嵯峨立地域に住んでいる人にとってあらためて地域を考える良い機会となりました。少子高齢化や財政難などの理由で、学校があつて当たり前だった時代から当たり前でなくなった時代に突入したのです。

子どもたちの成長過程の中で地域や学校、家庭の存在は心身に健全に育っていくために必要不可欠ですが、それが十分に機能しているかどうか疑問に思います。子どもに對するしつけなど親ができることを学校や地域任せにしているのかどうかなど、この統合によって親として自分自身を確認する良いきっかけになったのではないのでしょうか。

地域の成長も一人一人が責任を持って行動し、語り合うことがなければ明るい将来は見えてきません。皆さんで頑張っていきましょう。



よしろう 岩瀬 善郎さん
(嵯峨立小・東和町錦織第5区)

■子どもたちのために今後もPTAの会員同士で連携・協力を

鱒淵小のPTAでは、小さい学校ならではの利点を生かしてきました。天然記念物に指定されている源氏ボタルの里ということもあり、「ホテル愛護少年団」を結成。ホテルを採卵・ふ化させ、子どもたちが毎日観察・飼育して幼虫の放流活動をしました。

また、子どもたちが栽培から収穫まで行い、地域の皆さんと交流する「収穫祭」なども行ってきました。

緑に包まれた学舎は長い年月の間、子どもたちの成長を見守ってくれて、地域にこの上ない活力を与えてくれました。閉校となるのは寂しいですが、新しい学校でもPTA会員同士で連携・協力し合い、子どもたちのために頑張っていきたいと思えます。

最後に閉校はしますが、一人一人の心の中に「鱒淵小を永遠に」と願います。



まさき 佐藤 正行さん
(鱒淵小・東和町米川第10区)

嵯峨立小学校



木造校舎お別れ会



第1回卒業生(昭和29年度)



北上川での水泳が禁止され米谷小プールでの水泳学習(昭和44年)



6年生から下学年への神楽伝承(昭和63年)



秋季大運動会(昭和49年)

| 年次 | 主な出来事 |
|-------|---------------------------|
| 昭和6年 | 普慶院内に創立 |
| 昭和8年 | 大清水に校舎新築 |
| 明治15年 | 公立新小学校と称す |
| 明治16年 | 中田町立上沼小学校の支校となる |
| 明治17年 | 嵯峨立初等小学校と称す |
| 明治20年 | 西郡尋常小学校嵯峨立分校となる |
| 明治21年 | 新校舎落成・開校式挙行 |
| 大正5年 | 回廊塔建設 |
| 昭和2年 | 児童文庫戸棚設置 |
| 昭和5年 | 新校舎落成式 |
| 昭和6年 | 体操公開授業 |
| 昭和12年 | 養兔飼育実施 |
| 昭和16年 | 錦織国民学校嵯峨立分校となる |
| 昭和19年 | 疎開児童2名入学 |
| 昭和22年 | 錦織小学校嵯峨立分校となる |
| 昭和25年 | 単式学級となる |
| 昭和27年 | モデル分校研究公開 |
| 昭和29年 | 嵯峨立小独立記念式典挙行 |
| 昭和30年 | 給食室完成 校歌発表会 |
| 昭和33年 | 校旗樹立式挙行 |
| 昭和35年 | みそ汁給食開始 |
| 昭和36年 | へき地1級指定 |
| 昭和39年 | 学区内集団赤痢発生 |
| 昭和42年 | 全国へき地教育研究会分科会会場 |
| 昭和43年 | 完全給食開始 |
| 昭和45年 | プール落成・祝賀会 |
| 昭和48年 | 創立百周年記念事業で標柱を普慶院に建立 |
| 昭和58年 | 文部省指定へき地教育公開研究会 |
| 昭和59年 | ソニー理科教育論文優良校受賞 |
| 昭和62年 | 東北博覧会へ子ども神楽出演 |
| 平成2年 | 新校舎落成祝賀会、新プール引き渡し |
| 平成5年 | 生徒指導推進モデル地区として県教育委員会より指定 |
| 平成13年 | 体育館落成 |
| 平成15年 | NIE研究協力実践校 |
| 平成16年 | 独立開校50周年記念式典 |
| 平成17年 | 市町村合併により登米市立嵯峨立小学校と校名変更 |
| 平成18年 | 青少年読書感想文全国コンクールでサントリー1学校賞 |
| 平成20年 | 閉校記念式典挙行 |



鱒淵小学校



馬の足分校校舎



ふくろ川にて



明治期の校舎(明治31年落成)



馬の足分校全校児童



親子旅行



ホタル放流

元校舎の航空写真(昭和31年)

| 年次 | 主な出来事 |
|-------|------------------------------------|
| 明治6年 | 西郡、嵯峨立、浪河原、鱒淵の4カ村連合小学校を浪河原村大慈寺に開設 |
| 明治7年 | 上臺、屋敷の両所に小学校を設立 |
| 明治8年 | 上臺小学校を竹峯山華足寺に移転、鱒淵小学校と校名変更 |
| 明治9年 | 屋敷小学校を廃止、鱒淵小学校に合併、鱒淵小学校を改め、明小学校と称す |
| 明治12年 | 改明小学校を改め、鱒淵小学校と称す |
| 明治18年 | 新築校舎起工 |
| 明治22年 | 浪河原小学校の分校となる |
| 明治29年 | 分立して、鱒淵尋常小学校となる |
| 明治31年 | 寺内開校(現在地)に校舎を新築移転 |
| 大正7年 | 鱒淵実業補習学校併置 |
| 昭和4年 | 鱒淵実業補習学校併置 |
| 昭和5年 | 新校舎3教室と便所を増築。手工科施設の認可を受ける |
| 昭和8年 | 1学級増加し6学級となり単式の学級となる |
| 昭和14年 | 鱒淵小学校保護者会創立總會、鱒淵少年消防団発足 |
| 昭和16年 | 鱒淵国民学校令により鱒淵国民学校と改称 |
| 昭和19年 | 鱒淵国民学校後援婦人会結成 |
| 昭和20年 | 新たに高等科を設置 |
| 昭和22年 | 米川村父母教師の会結成、国民小学校となる。学制改革により小学校と称す |
| 昭和25年 | 6・3制発足 |
| 昭和27年 | 文部省指定社会学級開講式 |
| 昭和28年 | 米川中学校鱒淵分校教室生徒が中学校新校舎に移転 |
| 昭和29年 | 児童図書開館式、開校80周年記念式挙行 |
| 昭和31年 | 馬の足分校開講式、全校児童に完全給食実施 |
| 昭和32年 | 1学級増加し7学級となる |
| 昭和35年 | 日高村が誕生。校章制定 |
| 昭和39年 | 米谷町と日高村の合併により東和町となる |
| 昭和43年 | 校歌制定、校旗・校歌額寄贈 |
| 昭和46年 | 分校開設10周年記念祝賀式挙行 |
| 昭和61年 | 馬の足分校が本校と統合 |
| 平成元年 | プール建設落成 |
| 平成6年 | 勤務生産学習推進校として文部省より指定、体育館落成 |
| 平成15年 | ホタル愛護少年団日本善行会より表彰 |
| 平成17年 | 新校舎完成 |
| 平成20年 | 創立130周年記念講話、日本環境学会東北支部より水すまし賞受賞 |
| 平成20年 | 市町村合併により登米市立鱒淵小学校と校名変更 |
| 平成20年 | 閉校記念式典挙行 |